



NEW
CAMPUS 2023
京都芸大は移転いたします

教員コラム

安藤隆一郎 (染織専攻 講師)

「ものづくりの身体」

2022年上半期の〈京芸トピックス〉

特別授業～佐渡裕・森村泰昌・山極壽一・
上村淳之/定期演奏会/伝音セミナー/
KUTSUKAKE1980-2023/オープンキャン
パス/芸大祭/新任教員紹介ほか

キャンパス移転 最新情報

2023年10月1日開校決定! 移転工事進行
中/大合奏室の名称「笠原記念アンサンブル
ホール」/移転整備募金ほか

特集

「鷹山の復興デザイン計画」の歩み

京芸通信

vol.

29



祇園祭 美術学部の〈専攻横断型〉授業 鷹山×テーマ演習



日本三大祭りの一つ、祇園祭。そのハイライトである山鉾巡行に、今年の夏196年ぶりに「鷹山」が復帰しました。その歴史的巡行の舞台裏では、本学の教員及び学生が、平成29(2017)年から美術学部専攻横断型授業「テーマ演習」のひとつ「祇園祭の鷹山の復興デザイン計画」で市民の方々と協力し、衣装や裾幕などのデザインに取り組んできました。今号では、鷹山の復活への一助となった活動の5年間の歩みを紹介します。

鷹山の歴史を知り、未来につなぐデザインをカタチに

「祇園祭の鷹山の復興デザイン計画」の授業では、美術学部の全ての科から集まった教員(※)の指導の下、幅広い専攻の学生たちがデザインに取り組みました。事前調査や、鷹山保存会へのプレゼンテーションと助言を受けた見直しなどを経て、学生達がデザインした衣装や裾幕が巡行で実際に使用されるなど、授業を通してデザインをかたちにする実践的な活動を行いました。鷹山の巡行復帰という歴史的な大事業に参加したという経験は、本学や教員、何より学生たちにとって大きな財産となりました。(吉田雅子教授／総合芸術学専攻)

(※) 担当教員

川嶋渉教授(日本画専攻)、滝口洋子教授(ビジュアル・デザイン専攻)、日下部雅生教授(染織専攻)、吉田雅子教授(総合芸術学専攻)



残された古い資料を調査し、鷹山の歴史を知るところから、復興デザイン計画が始まりました。

テーマ演習

「祇園祭の鷹山の復興デザイン計画」

の歩み

2017



ひきこ
「曳子(※1)」と「ちりん棒(※2)」の衣装が完成

※1「曳子」…山鉾の綱を曳く人
※2「ちりん棒」…曳子を先導する役目の人



ちりん棒

2018



はやしかた
「囃子方(※3)」の衣装の
プレゼンテーション

※3「囃子方」…お囃子を奏でる人

「囃子方」の衣装が完成



曳子

2019

「音頭取り(※4)」・「車方(※5)」の衣装等の
プレゼンテーション

※4「音頭取り」…山に乗り音頭を取って合図を掛ける人
※5「車方」…山の進行を制御する人



囃子方



2021



音頭取り



車方

「音頭取り」の衣装と
「車方」の法被が完成

裾幕が完成



2022

ついにこの夏、復活。



京芸生らしい感性豊かな提案をこれからも

多くの方のご支援・ご協力により、思っていたより早く鷹山が復興できて、感激しています。苦勞したとは思っていません。難題を越せば復興できると、一つ一つ取り組んできた結果です。京都芸大の皆様には真摯に取り組んでいただき、お礼を申し上げます。若くて感性豊かな学生さんからの提案に感嘆をさせて頂きました。斬新でありながら古来からの文様との調和は、さすが京芸の学生さんですね。鷹山は、まだまだ復興への道が続きます。今後も京都芸大と協力して行けたら幸いです。

(山田純司さん／公益財団法人鷹山保存会 理事長)



鷹山保存会の皆さんと(令和元(2019)年)

デザインを通して祇園祭に関わる貴重な経験

鷹山は、御神体が鷹狩りに関連する伝統ある山鉾です。当時の自然の中で行われた鷹狩の風景をイメージするために様々な調べ物や観察を行い、最終的に鷹狩りの草原をテーマに躍動感を感じられるデザインを考えました。先生方やメンバーの力で今回のデザインができたと思います。長い歴史のある祇園祭にデザインを通して関わるという貴重な機会をいただき、先生方と鷹山の関係者の方々には、今後の財産となる様々なことを学ばせていただき感謝をしています。

(小山内瑞恵さん／裾幕のデザインを担当)

テーマ演習について、くわしくはこちら！ →

<https://www.kcua.ac.jp/arts/theme-practice/>



本学では、横断型授業「テーマ演習」を通じて、学生たちは専攻の垣根を超え、学外のさまざまな分野の方々と連携する機会を得て、交流と知識・経験を深めています。これからも学生と教員がテーマの対象を共に探りながら、この特色ある教育プログラムを進めてまいります。

Recent topic

令和5(2023)年10月の新キャンパス移転まで残すところ1年。
いよいよ間近に迫ってきたキャンパス移転に関する直近の準備状況等をご紹介します。

2023年10月1日
開校決定!



建設中の建物

建設工事は着々と進行中!

令和3(2021)年5月からスタートした新キャンパスの建設工事は、日々着実に進んでいます。既に建物の鉄骨の組み上げ作業はほぼ終わり、一部シートに覆われている箇所はありますが、建物の姿が見えてきました。

引き続き工事を施工する京都市と協力して、完成までしっかりと取り組んでまいります。



工事の様子(京都タワーから撮影)

移転工事の進捗状況を本学ウェブサイトからご覧いただけます。

<https://www.kcua.ac.jp/profile/iten/archive/>



新キャンパスの設計コンセプト紹介動画を配信

未来の芸術を担う本学学生に向けた収録形式による公開特別講義「パブリック・テラス」。第3回目となる本年6月の配信回に、新キャンパスの設計を担当している関係者からなる「京芸JV、リサーチ・機運醸成チーム」の皆さんに登壇いただき、京都駅東部エリアの新たな核となる新キャンパスの設計コンセプト等についてお話しいただきました。



YouTubeの本学公式アカウントからご覧いただけます。

<https://www.youtube.com/watch?v=TvIN5UQxwyM>



大合奏室の名称が「笠原記念アンサンブルホール」に決まりました

新キャンパスの教育・研究環境の充実を図る目的で広く募集している本学移転整備募金に、この度、株式会社MIXI取締役ファウンダーの笠原健治様から多額のご寄付をいただきました。本学では、笠原様からのご厚志を末永く顕彰するため、新キャンパスに整備する大合奏室の名称を「笠原記念アンサンブルホール」とすることを決定しました。

令和4(2022)年5月には、笠原氏と本学音楽学部で35年の長きにわたり非常勤講師を務められたピアニストでご母堂の笠原成子氏を本学にお招きして、寄付受納式を執り行っています。



笠原健治様と新キャンパス完成予想図(本学にて)

JR京都駅で新キャンパスの模型と学生作品を展示

令和4(2022)年10月1日から11月6日まで、京都駅西口改札前の西口広場で、本学大学院生の徳永葵さんの作品展示と、新キャンパスの模型展示を行います。

初日の10月1日には、移転までの残り日数を表示するカウントダウンボードの除幕式のほか、本学音楽学部生によるミニコンサートを開催します。

来年秋から本学の最寄駅となる京都駅。お立ち寄りの際はぜひご覧ください。



新キャンパス模型(部分)



過去のミニコンサートの様子



今回出展する徳永葵さん
(大学院修士課程1年生)

移転整備募金

ご支援をお願いいたします

移転整備募金ウェブサイト

<https://www.kcua.ac.jp/contribution/itenseibibokin/>



京都芸大では、「京都市立芸術大学 移転整備募金」の活動に取り組んでおります。この募金にいただきましたご寄付は、新キャンパスの移転に伴い必要となる、作品制作のための機器や楽器の更新など、教育研究環境の充実のために活用させていただきます。皆様からの温かいご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

募金についてご不明な点がございましたら、移転準備室(TEL:075-334-2285)まで、お気軽にお問合せください。

ものづくりの身体

安藤 隆一郎

美術学部染織専攻 講師

いつからだったか、学生にカッターナイフの使い方を当たり前のように説明するようになっていた。手を置く位置や刃を折って使うことなどを知らない子もいるから驚愕。「あ〜いよいよこの時が来てしまったか」と思った。ちょうど同じ頃、走り方がわからない子がいるというのをニュースで見た。走り方がわからない??? 驚くことに、走り方を教える家庭教師がいるという。世も末だ。でも、仕方がない。彼らが悪いのではなく、人が目指し、作ってきた“便利”な暮らしが悪いのだと思う。

祖父母より上の世代と比べてみるとそれは明らか。昔の暮らしは身体と共にあったのに、今は指一本あれば魔法のようになんでもできるようになってしまった。この先もさらに“便利”な暮らしを突き詰めていくと、人類は本当に身体を使わなくなって、体はやせ細り、大きな頭に大きな目と小さな顎の…そう。宇宙人と聞いてよくイメージするヤツ。あれは未来の地球からやって来た人類だろう。果たして人類はあんな姿になってしまうのか? たとえなくてもアニメや映画のように肉体を捨てて電脳化、義体化してしまうのではないか? そうはなって欲しくないが、それには私たち自身が人間が持つ肉体の素晴らしさを知っていないといけない。

近い将来、自らの身体をもって素材と道具に向き合う我々「ものづくりの人」は、身体 of 素晴らしさを知る数少ない立場となるのではないか。それは医療やスポーツといった、身体 of 専門家がイメージする人たちとは違う視点 of、本来人間の誰もが暮らしの中で持っていた人間らしい身体である。だから、ものづくりをする私たちは身体を知る専門家の一つとして立ち上がらなければならない。とはいえ、我々現代、そして未来のものづくりの人は、昔と比べると身体 of 基礎が欠けているので、つくることに合わせて身体について



Profile | 安藤 隆一郎 (あんどう・りゅういちろう)

1984年京都生まれ。2007年京都市立芸術大学美術学部工芸科染織専攻卒業、2016年より、作品の制作を通じて得た身体感覚や思想を発展させ、身体 of 使い方を0から見直すための実践《身体0ベース運用法》を考案、体験型インスタレーションの制作、発表やワークショップなどをおこなっている。2021年から本学専任講師。専門は染織・身体翻訳。ウェブサイト: <https://ryuichiroando.com/>
身体0ベース運用法: <https://www.shintai-0-base.com/>

も学び直さないといけない。私は学生の頃にそんなことに気づき、立ち座りから歩き方などの日常動作を見つめ直し、制作を行ってきた。しかし、「ものづくりの身体」の必要性は同じものを作っている友人にもなかなか理解してもらえず、もどかしさを感じていた。

とうとう我慢できなくなった2016年。私はそれまで考えてきた自分なりの身体論に「身体0ベース運用法」という名前を与え、インスタグラムにただ棒を持って走っているトレーニングの写真などを投稿し始めた。しばらくすると、それまで興味を持ってもらえなかった人からも「ところであれは何なん?」と聞かれるようになった。

それから少しずつ機会をもらい、いろんな場所でワークショップやレクチャーなどを行っている。

近年の活動では、弟子入りと称して自らの身体を使って様々な文化を習い、制作をしている。例えば、大学から一山越えた亀岡では、保津川下りの操船技術の一つである櫂引きを1年かけて習得した。この夏からは秋田にて「^{おえだらみ}太平箕」を作る最後の職人である田口昭平さんの山に入り、素材を採取する方法やつくり方を追いかけて、そこにある五感も含めた身体技法を学んでいこうと思っている。おそらく、そこにはものづくりをしていく人たちが知らなければならない身体が沢山あり、それを自らが理解し、伝えていくことが大切だと思う。

本学では興味深いことに、保健体育の上英俊先生が音楽科の学生に体力づくりを教え、成果を出している。最近では体育館の筋トレルームを音楽科の学生が熱心に使っていると聞く。私が学生の頃はそんなことはなかった。音楽は楽器を身体で扱い表現する。声楽ともなれば身体が丸々楽器である。意識して身体に向き合えば結果がちゃんと出るのだ。むしろ、今の私たちは基礎が無いからこそ、そこに伸びしろが必ずあると思う。美術も意識して取り組んでいくと何か起こるのではないかと。思う。

かつて、東京芸大では野口体操で有名な野口三千三先生や、著書『内臓とところ』で有名な三木成夫先生がいた。坂本龍一氏も学生の頃、野口先生の体育を履修しており、インタビューでは「野口先生には、芸大時代に、一生忘れられないようなことを教えてもらった」と話されていたそう。

両先生にはとても及ばないが、「ものづくりの身体」について何か一つでも一人にでも伝えられることを目指して、今日も山に入り、木に触れて、運び、手を加え、身体について考えていきたい。



道具と一体化し、素材を加工する田口昭平さん(84)

学内オーディションで選ばれたソリストが快演 第168回定期演奏会



指揮・下野竜也教授



ソリスト・藤井虹太郎さん



【プログラム】
R. ネルソン／バスカリア〜BACHへのオマージュ（吹奏楽）
R. シュトラウス／交響詩〈死と変容〉 TrV158 作品24
A. デザンクロ／祈禱、呪詛と踊り
R. シューマン／交響曲第3番（ライン） 変ホ長調 作品97

7月8日、京都コンサートホール大ホールにおいて、音楽学部・大学院音楽研究科による第168回定期演奏会を開催しました。本学の下野竜也教授の指揮の下、R. シューマンの交響曲をはじめ、全4曲を演奏。「A. デザンクロ／祈禱、呪詛と踊り」では、学内オーディションによって選ばれた藤井虹太郎さん（管・打楽専攻4回生）がソリストとして演奏しました。これから未来を担っていく学生たちの、渾身の演奏をお届けしました。

記念ロゴマークと店内ビジュアルを在学生在が担当 京都駅ビル25周年記念事業

9月11日に開業25周年を迎える京都駅ビルの記念ロゴマーク及び記念ビールのラベルデザインを、美術研究科修士課程1回生の古草舞也さんがデザインしました。また、同じく25周年を迎えるJR京都伊勢丹の創業祭のメインビジュアルを、美術学部ビジュアル・デザイン専攻の田中愛莉さんが手がけました。店内2階の吹き抜けに巨大なメインビジュアルが掲示され、10階までのエスカレーターに沿って様々な形でディスプレイされています。お出かけの際は是非御覧ください。その他、記念イベントで音楽学部の学生が演奏するなど、9月11日は京都駅ビルが京都芸大一色となりました。



京芸大

2022年上半期の京都芸大

京都芸大の最近の活動や、主なトピックスをご紹介します。

在学生の森田拓夢さん 第91回日本音楽コンクール本選で受賞

本学音楽研究科修士課程2回生の森田拓夢さんが、「第91回日本音楽コンクール」作曲部門本選で第2位を受賞されました。



森田拓夢さん

森田拓夢さんからのコメント：

入学以来、専攻を超えて様々な先生方から時に厳しく、時に温かくご指導頂き、また学生生活を通して仲間と共に多くのことを学ばせて頂きました。京芸で過ごした時間が私にこの様な身に余る機会を与えてくれたと感謝しております。より魅力的な作品が作れるよう引き続き精進してまいりますので、これからの活動を少しでも気にかけていただければ幸いです。

日本伝統音楽研究センター 細川周平新所長の記念セミナーを開催

本学の研究機関である日本伝統音楽研究センターでは、7月28日、細川周平氏の所長就任記念講演会「邦楽調査掛－保存と調査の20年(1907-1928)」をライブ配信で開催し、多くの方に視聴いただきました。



今年もウェブコンテンツが充実 オープンキャンパス2022

8月上旬に美術学部のウェブオープンキャンパスを開催しました。各専攻からのメッセージやライブ配信、zoom個別相談会など様々な企画を実施しました。また音楽学部のオープンキャンパスは10月1日から2日に開催予定です。レッスン見学や専攻別オンラインガイダンスなど、対面とオンラインのハイブリッドで進学希望者をお待ちしています。



<https://www.opencampus.kcuu.ac.jp>

「美術学部1回生全員と考える 等身大のわたし」森村泰昌氏

4月22日、本学の卒業生で現代美術家の森村泰昌客員教授による特別授業を、京都市京セラ美術館で開催しました。本授業は美術学部1回生の必修科目「総合基礎実技」(※)の1コマとして、135名の学生を対象に行いました。30年以上セルフポートレート手法を使ってさまざまな表現をし続けてこられた同氏のお話は、今年の課題「等身大のわたし」に大きく関わっており、学生達は熱心に耳を傾けていました。また、同日会場で開催していた「森村泰昌：ワタシの迷宮劇場」の見学やご本人からの解説、そして質疑応答の時間も設けていただき、大変貴重な時間となりました。



森村泰昌氏

(※)総合基礎実技

美術学部の1回生全員が所属の科に関係なくクラス編成され、実技や学科、専門分野の枠を超えた教員組織により行われる領域横断型の授業。

「対象との対話を重ね、表現を追い求める」 上村淳之氏

6月21日、本学の卒業生・元副学長で文化功労者の上村淳之名誉教授をお招きし、日本画専攻の学生を対象とした特別授業を実施しました。授業では、「識ということ」というタイトルで、長年本学に貢献された上村先生ならではの京都芸大の思い出などを交えて、画家、教育者としての視点から、ものを観ることや描くことについて大変興味深いお話をいただきました。先生は、「蕾から花が咲くまでの過程にも心を寄せて描くことの喜び、ただ流行や誰かの作品に影響されるのではなく、対象をよく見て対話し、自分の表現をひたすらに追い求めることが大切である」とお話しいただき、最後の締めくくりには「一生懸命やりなさい。」という言葉で、心からのエールとして送られました。



上村淳之氏



「京芸の先輩として、共演を楽しみに」 佐渡裕氏

3月4日、本学の卒業生で世界で活躍されている指揮者の佐渡裕氏によるオーケストラの特別授業を行いました。ドヴォルザーク「交響曲第8番ト長調」を題材に、2時間超にわたるオーケストラ指導と、指揮専攻の学生への指揮指導をしていただきました。同氏による熱のこもった授業に、参加した約60名の学生たちは、一瞬も無駄にすることがないように全力で取り組みました。また最後には「京都芸大の先輩として、どこかの演奏会で一緒に演奏できることを楽しみにしている」という温かいメッセージをいただきました。



佐渡裕氏

「野生ゴリラの社会生態学的知見から、 これからのアートについて」山極壽一氏

6月20日、総合地球環境学研究所所長の山極壽一客員教授による特別授業を開催しました。アフリカ各地で野生ゴリラの社会生態学的研究に従事されてこられた同氏の深い知見を基に、これからの時代に必要とされるであろうアートが持つ、身体的なコミュニケーションやそれによって得られる共感についてお話しいただきました。本授業も「総合基礎実技」の1コマとして行い、学生たちは熱心に耳を傾けていました。



山極壽一氏

新任教員のご紹介

2022年度より6名の教員が着任しました。



上野真知子 特任教授
染織専攻



堀田千絵 准教授
教職課程



森本瑞生 講師
管・打楽専攻



太田峰夫 教授
音楽学専攻



清水久莉子 特任講師
教職課程



細川周平 所長
日本伝統音楽研究センター

沓掛キャンパス最後の芸大祭!

11月5日から7日まで、3年ぶりの実地開催



今年のテーマは、「くっつけキャンパスへ、ようこそ。」です。約40年の歴史を有するキャンパスを飾る最後の芸大祭。キャンパスに宿っているかもしれない「くっつけの神様」を今現在の芸大生が創造します。新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、しっかりと

感染対策をして安全に楽しめるように準備を進めていますので、ぜひお越しください。



Twitterアカウント: @kcua_2022



沓掛キャンパスで撮った写真をお持ちの方へ

芸術資源研究センターでは、これまでに皆さんが撮影した沓掛キャンパスの写真を提供いただき、沓掛時代の記憶をまとめたアーカイブをつくる取り組みを進めています。

下記の特設サイトの投稿フォームより、お持ちの写真データをお寄せください。

<https://kutsukake2023.com>



映画「ミュージコフィリア」DVD・Blu-ray 発売



本学が原作舞台のモデルとなっている映画『ミュージコフィリア』のDVDが発売されました。キャンパスのロケ地提供、学生・卒業生による映画挿入曲の書き下ろし、演奏協力、撮影協力(演奏シーンの撮影)、キャストへの演奏指導、などで本学が全面協力しました。

©2021 musicophilia film partners
©さそうあきら/双葉社
2022年7月6日発売

先生たちの研究分野をのぞいてみませんか?

～最新出版物のご紹介～



鶴見俊輔の言葉と倫理: 想像力、
大衆文化、プラグマティズム
谷川嘉浩/著 人文書院
2022年9月12日発売



島田 陽 住宅
島田 陽/著
エーディーエー・エディタ・トーキョー
2022年6月27日発売



演奏家が語る音楽の哲学
大嶋 義実/著
講談社選書メチエ
2022年5月12日発売



13歳からの考古学
なんで信長はお城を建てたの?
「お城」のはじまりを探る旅
畑中 英二/著 新泉社
2022年5月9日発売

